四谷の
千枚田だより
第106号

六月二日、連谷お助け隊(二十五名)は恒例行事となった「お田植え感謝の夕べ」を開催した。

週間予報は意地悪く開催当日のみ雨マークでスタッフの面々は心配しきりであったが、「勢いで天気にしてしまえ」、「天気のことを言うな」を合い言葉にバザーの具材など、前日に調達してしまった。

さて、当日、八時集合。林義明リーダーから「いろいろあることと思うが、いくら腹が立っても煮えくり返っても顔は笑って、こらえて笑って、笑って今日の一日を楽しみましょう。」と挨拶。統括の原田佳治・小山英樹(敬称略)からスケジュール、役割分担があり設営に掛かった。いつも何かと助けられている保存会の有志も設営の一員として頑張りをみせた。

～どうやら、雨は勢いに退散したようだ～

駐車禁止を視野に県道の両脇にロウソクを置き、連谷小学校を駐車場にお借りしたが午後三時には満車の状態でお助け隊の駐車係りは周辺の広場や民家にもお願いする始末で肝心の「灯そう千枚田」を見たのか見ないのか、てんてこ舞いの状況であった。六時半、千五百本のロウソクを一般の人たちを交え点灯。七時、小山泰徳から「お田植え感謝の夕べ」の開催宣言。

にわか作りの舞台では連谷小学校児童五名が合唱。観客から大きな拍手をいただいた。また、市役所に勤めるバンドメンバー「ハイコーズ」のバンドが盛り上がりを見せた。(ハイコーズは昨年三月廃校になった県立鳳来寺高校卒業生など五名で結成。本日が初舞台である)

恒例参加の「こども陣太鼓」は背景に千枚田に灯る幻想的なロウソクが観賞できる駐車場にセッティング、盛り上がりを一層魅せた。バザーはメンバーや、その嫁っこ、娘たちが販売を担当。棚田っ娘の五平餅も売り切れの盛況であった。

九時半、今泉実史による閉会の言葉で無事終了した。観客の帰ったのを見定め、棚田を灯す千五百本のロウソクをメンバー全員と自主的に協力した中学生で消してまわり散会した。

振り返って・・・二十数名のお助け隊が五百人を超す見学者の対応は限界を超えており、このイベントを通し地域活性化は望むものの課題も大きい。この十六日には反省会を開き方向性を探る所存である。

環境整備活動

《あいち森と緑づくり事業》

①五月二十六日、保存会、方瀬集落は市道、生活道などの住環境整備を実施した。

②五月二十七日、保存会、連谷お助け隊は六月二日にお助け隊主催で開催する「お田植え感謝の夕べ」を視野にふれあい広場・千枚田入口周辺、ろうそくを灯す景観道等々の草刈り、清掃作業を実施した。

千枚田にチェーンソーアート

「お田植え感謝の夕べ」の日、地元の稲熊和男さんからチェーンソーアートの作品四点が寄贈された。

写真右より「ようこそ千枚田」とフクロウが皆さんを迎え、次は眼光鋭い「鷹」がふれあい広場から千枚田を見張り、ビオトープでは二匹のカエルが「ぶじかえる わがやえ」と愛嬌ある風情で訪れた人々をお見送りしている。

千年の杜

新入社員研修や藁を購入していただくなど、深い絆を持つ横浜ゴム新城工場では五月二十六日、第四回千年の杜植樹祭が工場内の防災公園で開催され、保存会から高橋庄一、高橋孝行、今泉雅男、松下誠、小山舜二が参加した。

三遠南信

六月一日、あいち県民の森を会場に三遠南信住民ネットワーク協議会設立総会・大交流会が開催された。

大交流会におけるプレゼンテーションでは十七団体から各地域の取り組み、活動が闊達に報告された。また、ポスターセッションも行われ、三遠南信地域の連携を深める有意義な交流会であった。

これまで、設立準備会の一員として会合に出席してきたが十一月に開催する「第二十回三遠南信サミット２０１２ in 三河」に向け、多忙を極めることも地域の連携・活性のため、ふんどしを締め、取りかかる所存である。

小水力発電

四谷の千枚田を潤す恵まれた湧き水を利用した小水力発電装置が愛知県の１号機として設置準備(愛知県農林水産部農業総合試験場。設楽建設事務所による水量調査等)が行われている。

大村知事は愛知県は全国でも一番の農業用水路を有し、千枚田を事例に小水力発電の設置、普及に大きな期待を寄せている。

田の草取り

六月七日、豊橋調理製菓専門学校一年生二十三名は自ら植えた稲の生長にビックリ。粳(ミネアサヒ)と糯(スズハラモチ)の生育調査、水質調査、生き物調査などを行った後、田の草取りを丁寧に行った。また、梅の収穫や地域色豊かな料理を地元のお母さんと一緒に学んだ。

小さな旅

（ＮＨＫ(総合)

六月二十四日、日曜日の午前八時から三十年以上の歴史ある「小さな旅」が放送されます。

モリアオガエルの産卵が盛期です。（六月十日撮影）

発行　平成二十四年六月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責　小山舜二